

資料1

沐浴ポイント

学籍番号（ ） 学生氏名（ ）

項 目	チェック項目	○
1. 沐浴の目的を述べるができる。	1) 全身の清潔	
	2) 血液循環を活発にし、発育を助ける	
	3) 全身を観察できる機会となる	
2. 沐浴実施の判断項目を述べるができる。	1) 新生児の状態；活動・機嫌・哺乳力・嘔吐・下痢など	
	2) 沐浴の時間帯；哺乳直前・空腹時 直後ではない（30分～1時間）	
	3) バイタルの正常値；体温 36～37.5℃ 心拍 24 時間以内 100～160/分，24 時間以降 100～200/分 呼吸 30～60 未満	
	4) 全身の観察；背部・殿部・皮膚の重なった部位 皮膚・臍の状態（黄疸・湿疹・臍脱・臍湿潤など）	
3. 沐浴の環境調整の項目を述べるができる。	1) 室温 20～24℃	
	2) 隙間風がないかの確認	
4. 必要物品の準備ができる。	1) 必要物品の確認（沐浴槽・温度計・バスタオル・沐浴布・沐浴ガーゼ・石鹸・かけ湯洗面器・衣類・臍処置用品）	
	2) 衣類の袖を通し、セットしてバスタオルを掛ける	
	3) 浴槽に湯を入れる。（湯の温度：夏 38～39℃，冬 40～41℃）	
5. 脱衣させ、安全に沐浴槽まで移送できる。	1) 袖の脱衣は関節を把持して脱がせることができる。	
	2) 左手で新生児の後頭部を支え、右手を新生児の股間に入れて、殿部を支えるようにして抱き、新生児を移送させる。	
6. 安全を考慮し、新生児の身体を洗い拭くことができる。	1) 順番の基本（上から下） 顔→頭→前胸部・腕→下腹部→外陰部 首・腋窩・鼠頸部・膝などくびれた部分に注意している。	
	2) 背面（右手で支え、左手で洗う：支え方） 背部→殿部→下肢	
	3) かけ湯をかける。；足から上に向かってかける。 湯の温度は、適切か。	
7. おむつを適切に装着し、衣服を整えることができる。	1) おむつ適切にあたっているか。	
	2) 衣服のしわを伸ばしているか。	
	3) 紐を正しく結べたか。（縦結びにならない）	
8. 整髪し、鼻・耳をきれいにする	1) 頭部を固定して安全にしているか	
	2) 綿棒で鼻・耳の孔を拭く	
9. 報告できる	1) 実施時間（所要時間）実施前・中・後の一般状態、全身の観察事項（体重・臍の状態・排泄状態）	
	2) 沐浴終了15分後の体温（保温に配慮できていたか）	